

## 市民が思う男女共同参画

VOL.17

今回は、市民の方に「男女共同参画」について、ご意見を伺いました。



前男女共同参画懇話会委員  
稲葉世起子さん(土岐津町)

### 「今大切なこと」

「男女共同参画」という言葉に初めて出会ったのは、岐阜市の県民ふれあい会館での講座でした。初めは、考え方についていけず、「そんなこと絶対にいけないわ」と思う毎日でした。それでも、いろいろな話を聞いているうちに、少しずつ「ああ、これは二十一世紀の生き方に大切なことなんだ」と思えるようになってきました。

土岐市でも、男女共同参画

プランができ、やっと身近になったと感じています。誰にも思い込みや習慣があり、それはごく自然に意識の奥に住みついてしまっています。

わが家でも祖父母、父母からの言葉や伝えられた事柄が無意識のうちに語られ、何かのときには習慣となり、現れます。「お母さんは家事・育児、お父さんは外でお仕事」という意識を変えるのには、百年はかかるそうです。染み付いたことは、なかなか消えませんが、「男女共同参画」という言葉の響きを、少し考えたらといつも思います。そして、私がそうであったように、「どんな事柄でも頭から否定しないで、一応内容を知ってみる。それから判断する。豊かに老いていくためにも、情報に惑わされることなく、何が今大切なことなのかを見ていきたい」と思っています。

## 教育 夢 発信

### 妻木小学校附属幼稚園

## お祭りまでのふれあい活動



1回目の家族参観日の様子

妻木町には、市の無形文化財の指定を受けた「流鏝馬やいばり」というお祭りがあります。その祭りの行列に、園児が『ちびっこ武者』として参加するようになって五年目になります。

ダンボール製のよらい作りを、「妻木城址の会」の方々の協力を得ながら行いました。

一回目は、家族参観日の際、主に父親と子どもで、ピラ（各よらいの部分）をひもで組み合わせました。

二回目は、地域の老人会の方々に手伝っていただき、鏝やいばりの身ごろに和紙の模様貼りを行いました。

三回目は、七月の参観日、主に母親にピラと身ごろを組み合わせせていただきました。できあがったよらいを見て「やった!」「かっこいい!」「お父さんやお母さんが手伝ってくれたんやね」と喜んでいました。



2回目の和紙の模様貼りの様子

四回目は、九月の祖父父母参観日にかぶと作りをして完成させます。

こうして、家族ぐるみの支援を受け十月の流鏝馬やいばりの行列に参加します。お母さんたちは、「大変でしたが、町の大きな行事に参加できることはうれしいです」「手作りに参加することの楽しさや喜びを、子どもにも感じ取ってもらえればうれしいです」「結構本格的な物なのでびっくりしました。当日は、雨が降らないといいなと、つくづく思います」などと語っておられました。

家庭や地域の方々と触れ合いながら、愛情をいっぱい受けて生活している園児は、心豊かにたくましく生きる力を身に付けていくと考えています。